

＝第22号＝

発行：2004年11月1日

編集：立命館大学応化会事務局

編集責任者：北尾 舒彦

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学応用化学系事務局

TEL. 077-561-2658

Rits

立命館大学

応化会ニュース

会長就任挨拶

会長 木村 碩志

（昭和二十七年卒）



改革して参りました。また、今年応化会も設立二十周年を迎え記念式典を六月十九日に京都タワーホテルで二百名の会員を集め盛大に挙行致し、感激の余韻がまだ心に残っております。

錦秋の候、会員の皆様方には、各分野において益々ご活躍の事お慶び申し上げます。又、日頃は応化会の運営につきまして、何かと格別のご支援、ご協力賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、さる六月十九日第八回総会におきまして、はからずも皆様方のご推挙を賜りまして、応化会の第三代会長に就任いたしましたことになりました。誠に光栄に存ずるとともに身の引き締まる思いでございます。

立命館大学の理工学部は今年で設立六十五年を迎え今や日本の私学の雄として君臨するまでに発展

助になりたいとお願いいたすものであります。

あります。

私ども応化会の目的の一つは「会員相互の親睦を図る」事にありますので、この目的に沿った運営を心掛けていきたいと思っております。現在応化会のメンバーは全国で九千余名が名簿に掲載されております。支部の設立が今後の課題となつてこようかと思われまふ。

会員が増えて参りますと、全国から一堂に会する事は、何周年記念とか、何か大きな行事がある時でないとか中々難しいと思われまふので、各地で支部を作つて頂いて、地域ごとに応化会支部の懇親会を開催していただき、年に一回か、何年に一回は各支部長、役員を含めた集まりを開催すれば如何かと考えております。

また、二つ目としまして会員が楽しく親睦をするために各種の同好会やリクリエーション的な物を増やしてはどうかと考えております。現在①徒行会 ②懇親ゴルフ会を毎年実施して居りますが、さらに皆様方のご提案によって同好会のようなものを作つて懇親の輪を更に広げて頂ければ幸いです。

三つ目として、名簿の管理であ

ります。最近各種名簿による第三者の不正使用がマスコミ等で伝えられております。会員名簿は一に正確性、二に迅速性が必要とされますが、今一番の問題は如何にその名簿を安全に管理するかと言う事が問われております。不用意に廃品に出したり、不用意にコピーを他人に取られてそれを悪用されまふと「オレオレ」詐欺のような問題を起す可能性が起るかもしれません。会員名簿の管理に就いては幹事会でもよく相談して、より良い方向に持つていくように致したいと存じますが、皆様から良いお知恵がありましたらお聞かせ頂きたいと思ひます。

どうか、これからも会員の皆さん方と共に母校立命館大学と応化会の益々の発展のために、微力では御座いますが努力を尽くしたいと思ひますので重ねてご支援、ご鞭撻を賜りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。簡単では御座いますが、就任のご挨拶と致します。

近況報告

応用化学系前期学系長 小島 一男



応化会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

旧化学科同窓会が発足して二十年以上が経過し、去る六月十九日(土)、京都タワーホテルに於いて、応化会の「創立二十周年記念祝賀会」が盛大に開催されましたこと、謹んでお慶び申し上げます。

さて、今日、少子化に伴う大学受験者数の減少、国立大学の独立行政法人化、大学評価の時代の到来など、大学を巡る大きな情勢の変化の中にあつて、本学の理工学部に関しては、本年四月に、情報理工学部が新設となり、また理工学部の工系三学系では発展・改

編に伴い「電子情報デザイン学科」、「マイクロ機械システム工学科」、「建築都市デザイン学科」が増設され、一学系三学科体制となりました。

応用化学系にあつても、ここ数年来、将来構想検討委員会を中心

に、より特色を出した、インパクトの高い学系に拡充・発展させるべく検討を重ね、昨年度、将来構想案としてまとめるに至りました。この案を基に、是非とも近い将来に応用化学系の新展開を実現させたいものと考えております。

ここで、教員の移動についてご紹介いたします。近藤紘一先生、谷利陸平先生は、三月末で定年退職になり、四月からは特別任用教授として引き続き講義他を担当しておられます。また、菊池正和、鈴木健二、高橋卓也、長野正道、藤田典久の五名の先生は、四月に、情報理工学部生命情報学科に移籍

されました。さらに、新任教員として、前述の将来構想案に基づき、新進気鋭の西尾悟先生、前田大光先生をそれぞれ応用化学科と化学生物工学科にお迎えしました。

応用化学系と生命情報学科は、今年度、緊密な協力体制をとりながら、学部や大学院の教育研究活動を行っており、例えば、応用化学系所属の学部卒業研究生二一七名中三六名が、また博士課程前期課程の大学院生一二名中十三名が、生命情報学科の教員に指導を受けています。

上述のように、昨今、種々の点で大学が評価され、競争が激しくなる中で、教育面はもちろん特に研究面においてその成果を内外に発信することが重要となつて来ました。応用化学系では、科学研究費補助金を始め、二十一世紀COE、ハイトクリサーチ、学術フロンティア、パイオベンチャー、放射(SR)研究、オープンリサーチなどのプロジェクト研究や各種共同研究・受託研究などを通じて学外研究資金を獲得し、質量両面において研究活動が活性化するよう努めております。この点、会員の皆様の益々のご理解・ご支援を

いただきました、何卒よろしくお願い申し上げます。

次に、貴重な誌面をお借りすることになりますが、昨年のこと、ある文献との出会い、再会と言つたほうが適当かもしれませんが、それについて書かせていただきます。

フェロセンは、二つのシクロペンタジエニル基間に鉄原子がサンドイッチした化合物としてよく知られ、本学系でも何名かの先生がその関連化合物を研究対象としておられます。私の研究室では、ゾル・ゲル法によりフェロセンをシリカ(SiO_2)ゲル中に固定化して着色物質を作ってみることにしました。実験開始後一週間ほどして、院生の眞田君の言うには、時間が経つと試料がフェロセンの黄橙色から青緑色に変化するようなのです。

ロセンの溶液を定電位電解させていただき、電極付近の溶液が青色になることを確認しました。結局、青緑色ゲル試料、フェロセニウム塩、および青色電解液のいずれの吸収スペクトルにも、六一五nmに同様の吸収バンドが認められたことから、ゲル試料が青緑色となつたのは一部のフェロセンがフェロセニウムイオンに酸化されたためとわかりました(フェロセンが多く残ると緑色が強い)。では一体、フェロセンがゾル・ゲル反応中どのように酸化されるのか。検討の結果、試料表面のヒドロキシル基からプロトンが外れ、それがフェロセンと反応するのではという考えに及びました。

この考えの妥当性についてさらに思案していた昨年六月十九日、BK Cへの移転以来ほとんど見るとともに無く机の前の書棚に並べたままにしていた古いファイルを開き、九九年の「化学と工業」誌の「トピックス」欄(八二四ページ)のコピーが挟んであり、東大理学部の吉武英昭という先生が、「Y型ゼオライト内のメタロセン類の構造とダイナミクス」という記事で、

ゼオライトにフェロセンを担持させると酸化される云々、と文献紹介をされているではありませんか。早速、その論文 (G. A. Ozin et al., J. Phys. Chem., 93, 878 (1989)) を読んでみると、フェロセンとゼオライトのヒドロキシル基とが反応してフェロセニウムイオンが生じる旨が議論されていました。

このような、その時の関心事にフィットしたことが何かの機会にふと現れるような経験は、会員諸氏も幾度かお持ちではないでしょうか。

今回の私と文献との出会いについては、衣笠で化学科の一員に加えていただいたときから周りにフェロセンを扱っている先生がおられ自分でもその錯体としての電子状態などに興味を持ったことから、当時コピーしてすっかり忘れていたものが十数年してBKCで突然姿を現した、そんなふうに感じています。



総会・記念式典

本年六月十九日(土)午後、京都タワーホテルに於いて第八回総会が開催された。一五〇名の会員が出席し、二〇〇三年度事業報告

および決算報告、役員選出、二〇〇四年度事業計画および予算などの審議が行われた。松田幹事の司会で開会し、まず過去三年間に逝去された会員に対して黙祷をおこなった。続いて、田村会長および小島学系長の挨拶の後、議長に香山氏を選出し、議事が進められた。

記念式典

総会終了後、同会場にて、本会創立二十周年記念祝賀会の式典が開催され、その後、フリープロデューサー木村政雄氏による記念講演会が「こうすれば伸ばせる! 人間の賞味期限」と題して行われた。

記念祝賀会の第二部として懇親

一、松田幹事より、前回総会以降の応化会の経過等について報告があった。

二、白石幹事より二〇〇三年度事業報告、澤村幹事より二〇〇三年度決算報告が行われ、会計監査報告の後、承認された。

三、松田幹事より会則変更に関する提案説明がなされ、審議の上、了承された。



左上：総会
右上：記念講演会
右下：懇親会

『現代に思ひこ』

フリープロデューサー 木村 政雄



我が家に子犬が産まれたらしい。

らしいと言うのは、まだその子犬に会っていないからである。家族は東京、仕事場は大阪と二重生活を始めてもう二十年以上になる。

いつもは東京・大阪半々くらいのペースで過ごしているが、たまたま今週は大阪に居る日が続く、まだその子犬と対面していないというわけである。

情報は専ら女房の電話による。

やれ、「二匹産まれて、残念乍ら一匹は死産であった」とか、「大きさがエクレアくらい」とか、「ミミー」という泣き声も電話で聞かされただけ。「女の子なので、名前はラッキーにした」とか。何でラッキーなのか、よく分からない。

そう言えば、最初に雄犬を買ったときも、次に雌犬を買ったとき

も私は命名に参加していない。

各々に「ミッキー」、「もも千代」という。よく分からない。カタ仮名にするなら、それはそれで統一すればいいものを。兎も角、「みんな」で決めたから」というのが女房の常套句である。どうやら、私は「みんな」に入っていないらしい。

「女性の言うみんなとは、たいてい三人である」という説がある。女房、長男、長女どうやらこれが「みんな」の正体らしい。自分の思いを一般化するために、「みんな」という修飾語を使っているに過ぎない。一般化しておけば自らにふりかかるリスクを回避できるからである。

大阪の地下鉄で採用されている、「女性専用車輦」というのもよく

分からない。従来はラッシュ時に限って運行されていたのだが、九月からは平日に限って、終日運行になったらしい。先日、私もうつかりして、いつもの位置で電車を待っていると、足元に「女性専用車輦」と書かれていて、慌ててサイド・ステップした記憶がある。

混雑している一般車輦から、ややうらめし気に隣の「女性車輦」

を見やると、ガラーンと空いていて、なかなか快適そうである。つり皮の色も、ピンクに替えられていて美しい。中には、二・三人男性も混っていた。ルール変更を知らないのか、はたまた確信犯なのか。

恐らくは痴漢防止のために設けられたであろうが、それにしてもこの差別待遇は如何なものか？やはり女性たちが、「みんなそう言っている」と声を上げたのだろ

うか。不思議に思ったのは、じゃ女性専用以外の車輦に乗っている女性には、痴漢OKってことになるのだろうか？ いやいやまさかそんな事はあるまい。でも、少しはリスクを覚悟しているかもしれない。

まさか、男性が皆、狼というわけでもあるまい。それに、私が乗った車輦の女性たちはどう見ても、疲れているおじさんたちよりは元氣そうであった。労ってもらうべきなのは寧ろ男たちの方かもしれない。

劇場やホテルのトイレでも、男子トイレにおばさん達が乱入してくることがある。女子トイレが満員だったために、オーバーフローして来たのだらうが、私など、つい間違えてしまったと思い、表示を確認するため一度外へ出たことがある。安心して再びトイレへ戻り用を足したが、背中におばさんたちの視線を浴びつつ、何とも落ちつかない思いをした。

もし、これが逆だったら、大変な騒ぎになっていた。女性も、一定の年齢を超えれば、フリー・エントリーにすればいいのかもしれない。それとも、地下鉄などは、「女性専用」と「おばさん専用」いや、「元女性専用」と表示すれば男性の被害も軽減されるのかもしれない。

女性には「喜怒哀楽の感情を記憶する」といわれている。これに対して男性は「事実を記憶する」といわれる。遊園地へ行ったあと、女性は何が楽しかったかということを覚えていて、どういう順序でまわったかは余り覚えていない。

それは男性の役割だ。我が家でも、旅行のあとアルバムを整理するのは専ら私の役割で、女房に委せておくといつになっても、アルバムは完成しない。

今、時代は大きく変わろうとしている。過去の延長線上の変化ではなく、変化そのものが変化しつつある。ヒエラルキー（階層）が存在し、強い求心力を持つ中心的存在があり、固い集団間の関係によって構成員が同じ方向を向いている時代から、上下関係がなくなり、一度点にばらけたあとのゆるやかな非階層的、開放的な関係が求められる時代に変わりつつある。

べたべたした粘着質的な付き合いよりも、強い個人の存在が期待されている。過去の事実を記憶するよりも、自らの想いを優先する

ことこそが求められている。変化の体験には痛みが伴う。過去のもを理解する方が、これから起こることを理解するより容易だからだ。我々は、痛みに耐えるか、変化への取り組み方を変えるかを選択しなければならぬ時に来ている。

自転車には二つの車輪がある。後輪は車体に推進力を与え、前輪は方向づけを行う。変化に遭遇した時、人はおもに後輪的な反応——自分たちがよく心得ていること——しかしながることが多いのだが、本当に必要なのは前輪的技術、つまり変化する環境を人びとが理解し、受け入れるのを助けることなのだ。

女性の時代なのだ。過ぎ去りつつある過去に拘泥するより、既得権益からフリーで、想いを優先する女性に前輪を委ねた方が面白い。きつと、自分の想いを「みんなが言っている」といいながら、オーガナイズしていくにちがいない。男性はサポートする後輪を担えばいい。アリス・サージェントもその著書の中で、これからは男文化にこりかたまった企業に女文化を取り込んで、最終的には両性型（アンドロジナス）にしなければならないと説いている。きつとそのうち、「弱い男性」を護る「男性専用車輦」が出来るのかもしれない。

（二〇〇四年六月十九日の「創立二十周年記念祝賀会」の講演後に「寄稿頂いたものです」）

続・「科学と宗教」最近の事情

岸 要

(昭和二十五年卒)



の対立的な思考に終止符を打ち、科学と宗教とを整合して新しい叡智を確立し、宇宙の真理に添った人類の未来を切り開いていく必要性を示唆しているのではないかと思う。」と結論した。

ら纏まった流れになりつつあることが書籍の出版傾向から窺われる。今回はこれらの流れを中心に述べる。

○「未知からのコンタクト」

桜井邦朋・村上和雄 共著

宇宙科学者と生命科学者との論じ、宇宙の始まりから現在の壮大な宇宙像、生命の起源から知的生命誕生の不思議、さらに宇宙の何処かの地球外知的生命探索にまで議論が及ぶ。

「宇宙はある偉大な意志によって創られた」

「生命はサムシング・グレート(ある偉大な何か)の意志によって創られた」

宇宙科学者と生命科学者との共通した認識は「偉大な意志」サムシング・グレートと神」と記しても著者等は否定されないと

思う。

○「脳+心+遺伝子サムシング・グレート」

(副題 人間とは何か)

養老孟司・茂木健一郎・村上和雄・竹内 薫 共著

解剖学、脳科学、生命科学、科学哲学、各分野の専門の立場から自由に論じられている。

これらの科学書から教えられることは、宇宙を構成する物質も分子、原子、原子核・電子と元を辿れば電氣的エネルギーの十と一オンの授受から成っており、人類の高度な生命活動さえ遺伝子のON/OFFという単純な働きに支えられていると言うことである。然るが故に、著者等は人類に自然の法則に合致した謙虚な生き方を求めている。

地球上で知的生命の道を辿った人類社会は複雑多岐な秩序・倫理によって営まれているように見えるが、人類もまた、宇宙・自然の中での存在であれば、元を辿れば単純な原理に支えられているに違いないと思う。

例えば「ドナー&アクセプター」、与える者と受ける者、この均衡を基本と考える。自然界に生きる動物たち、弱肉強食の世界であり、強い虎は弱い動物を餌食とするが空腹を満たせばそれ以上は襲わない。餌食となる動物は旺盛な繁殖力で補って絶滅することなく生態系の安定と秩序を保っている。

人類社会も富める者(ドナー)は貧しい者(アクセプター)に与えて過剰な蓄えをしないという自然の法則に従う謙虚さがあれば、平和と秩序が保たれる筈である。現実の社会は富める者はますます貪欲に蓄えて、貧者との間に不均衡を生じて、世界中至る所に悲惨な紛争を巻き起こしている。

今まで紹介してきた、宇宙科学、生命科学の各書は、人類はドナーとアクセプターとの不均衡を是正して自然の法則に謙虚に立ち返れと提言しているとも言える。

宗教の教理も同様に単純な原点に立ち戻れば異宗教間の醜い紛争は起こり得ないであろう。

以上、科学書を中心に述べてきたが、宗教側でもカトリックのパチカン市国では科学分野の研究が活発に行われている。数年前、パチカン天文台でジョージ・コインという司祭の天文学者が宇宙科学最先端の地球外文明探索(SETI)の研究をされていることを知り、京都司教区の若い司祭に資料入手をお願いしたところ一両日で詳しい資料を届けて下さり、その迅速さに驚いた。科学と宗教とを整合して人類の新しい叡智が生まれるのも遠い先ではないように思う。

六年前、本誌第十六号に「科学と宗教」最近の事情の小文を寄稿した。

〔第十六号寄稿小文の要旨〕

科学と宗教は長い歴史の過程で、離反対立の状態が続いてきた。

近年、カトリックでは教皇ヨハネ・パウロ二世が地動説のガリレオ・ガリレイの破門を解き、ダーウインの進化論を容認された。

一方先端的な科学者らは、「宇宙万物の秩序正しい現象は何か偉大な意志によって司られていると考えざるを得ない。」と、宗教・哲学的見解を提唱され始めた。この現状は「今や科学と宗教と

この結論の根拠は書店の書棚に数多く並ぶ科学と宗教分野の書籍を概観し、内容的特徴的な傾向から考察したものであった。このとき、紙面の都合で文献紹介は省いたが数多い著書の中で次の著書に特に関心を抱いていた。

○「宇宙には意志がある」

桜井邦朋著

○「生命の暗号」

村上和雄著

(副題 サムシング・グレート)

宇宙を司る意志、サムシング・グレート、当時は個々に述べられた点的情報であった。

最近、これらの科学者の間で交流が活発に行われ、点的情報が

定年退職にあたって

近藤 紘 一



年會に三人とも発表させることができた。覚悟はしていたが新しい研究室を立ち上げるにはかなりの資金が必要で、ピーカ、一つからそろえなければならなかった初年度から二、三年間、卒研費は消し飛んでしまい、とても備品の購入などおぼつかない。しかし、BKCキャンパス移転を機に、従来の立命館大学ではおそらくタブーであった産学協同研究を推進する方針のもと全国にさがし回りエゾンオフィスを中心とする推進機構が発足し、多くの会社から材料に関する相談を受けて受託研究費を得ることができ、また、ハイテクリサーチなどの私学助成金とともに定年まで大いにお世話になった。そのおかげで、試薬、ガラス器具など消耗費だけで少なくとも毎月四十万消え、卒研費だけでは到底まかなえなかった研究室を無事維持することができた。それにしても、当時、研究室には院生を含め卒研生毎年約二十人在籍していたが、よくこれだけガラス器具を破壊し、

うが無い。もう少し日常の実験を細かく指導できていれば、まともな運営をできていたであろうが、国立大学に比べ三分の一の教員数で三倍の学生を見る私学の現状ではとうてい無理、研究指導の緻密化が今後のおおきな課題と慰めていた。その間、一九九六年から二年間就職委員会をおお世話かった。バブルがはじけ就職状況が厳しくなるなか、応用化学系の就職率は九〇%を越え、そのうち大企業へも一割以上の就職を実現していたにもかかわらず、就職委員会では大企業への就職は他学科と比べ低いとの叱責を受け、執行部に呼びだされるはめとなった。機械、電気系企業の新卒採用数に比べ五分の一程度の我が国の化学業界の実情に触れても理屈が多いと一蹴され苦い思いをした。その後、終身雇用性が崩れ、リストラが続く中で、企業側の新卒に対する要求も、「問題解決型」の学生が欲しいという方向に変わってきた。小学生の時から塾通いし、大学入試突破だけの問題の解答に慣れ、偏差値でしか判断できない悪弊のなかで過ごしてきた学生の大半は目標を失った「指示待ち型」になっている。いつの時代も競争がなくなることはないであろうが、戦後、大学入試の通過を金科玉条としてきた罪は深い。さらに、今後、少子

化とともに大学進学が容易になる時代の迎え、これまでの入り難く出やすい大学の現況を改めることには誰も異論がないであろうが、細かい指導の上、サボッタ学生を容赦なく落とすという方法には教員側の覚悟が要求される。ともかく十年間の研究室生活で約一〇〇名

近藤紘一先生の御定年退職にあたって

河 口 昭 義

一九九四年四月に着任し、二〇〇四年三月に退職するまでBKCキャンパスで十年間過ごしたことになる。それまで二十五年間、阪大に身を置き、教授を頂点とするヒエラルキー社会の中で大層窮屈な思いをしていた。新しいキャンパスの空気を吸った時、やっと自由になった気がした。六人の卒研生を相手に高分子合成化学研究室をスタートすることとなったが、既に五十五歳を越え、新たに研究を始めるには遅すぎ、焦燥感が無きにしてもあらずといった時期を迎えていたが、これまで自由にできなかったテーマを卒研として始めることにした。幸い六人の卒研生のうち三人が大学院に進学するというのでテーマの継続性も可能になり、翌年一九九五年三月に衣笠キャンパスで開催された日化春季

名

名の卒業生、修了生を送りだすことができた。そのなかには国際学会で発表し世界的に注目を集める研究成果をあげ博士号を取得した院生も育ったことはこの上ない喜びであった。ご協力を戴いた皆様方にこの紙面をかりて感謝の意を表したい。

近藤紘一先生と私はこのBKCキャンパスが開学された一九九四年に一緒に赴任してきました。爾来、先生は合成を中心に、私は構造・物性の分野を担当することで、高分子化学の教育・研究に関ってきました。その他に、先生は環境・教育・運営にも関与され、また種々の役職を通して学系の運営、発展に尽力されました。先生は、真に明朗で親しみ易いお人柄ではあります。物事の道理に外れることには喧しく、講義では学生の受講態度について常々厳しくしておられたようです。研究についておなじみで、特に合成では時間を費やすことを疎んじてはならじと、大学院入試の面接の時には、「君は朝何時に来て実験をどのくらい

定年退職にあたって

谷利陸平



の習得に一年を費やし、研究は足踏み状態で終始します。

キャンパスの移転と大学院の充実は応用化学系の向上に大きく貢献し、理工学部が立命館大学の中心となったことはすべての人が認めています。私はその間に立命館大学に在職し幸せでしたが、衣笠時代に学生時代を送った人は気の毒だったなと思います。

での使用時間調整が大変でした。それが今のキャンパスでは、広々としたドラフト中ですべての合成実験が行えるようになり、最新鋭のNMRは何台もあり、研究せず遊んでいては申し訳ない気分でした。

衣笠時代に私が驚いたもう一つ

私が立命館大学に来ましたのは一九九〇年で、理工学部が大変革をする準備をしている時でした。着任直前に草津市への移転が新聞紙上に発表され、それまで通学・通勤の時間が自転車です十分でしたので大変だと思いましたが、衣笠の実験室を見た時移転すべきだなと思いました。

私立大学の経営が当時苦しいこととは知っておりましたが、研究設備の貧しさは予想以上でした。実験室に小さいドラフトが一台あるだけで、ここで有機合成実験をするのは無理だと実感し、それまでの先生・学生の方々はご苦労だっただろうと思いました。また有機化学の研究で毎日使うNMRが化学科に一台あるのみで、研究室間

使用法、合成実験法、文献検索等

新しいキャンパスは琵琶湖がよく見える見晴らしのよい所にあり、景観の良さでは全国大学のトップクラスです。山を崩し表土が除かれた所に植えられた樹木が、悪条件ではあるがもともと大きくなり、落ち着いたキャンパスとなって欲しいものです。

今後は若い有能なスタッフが研究・教育をなお一層充実され、応用化学の皆様が優秀な学生の確保に協力して下さることを期待します。

退職後は特任教授として教育にたずさわりますが、とりあえず退職のご挨拶とこれまでのご厚誼に対して深く感謝を申し上げる次第であります。

谷利陸平先生の御定年退職にあたって

民秋 均

谷利陸平先生は、京都大学理学部から、一九九〇年に立命館大学に御着任されました。十四年間の在職中には、本学の教育／研究ならびに様々な業務は勿論のこと、衣笠から草津への移転やそれに伴う理工学部の改革／発展のためにも御尽力されました。特に、有機化学に関わる教育と研究に精力をそそがれて、多くの卒研究生を育てられ、谷利研究室の卒業生が、現在多方面で活躍されていると聞いております。

先生がお使いになったお部屋はともきれいなところだったので、昔からつとに有名でしたが、これからゆつくりと実験室に回っていただいて、高所大所から叱咤激励頂きますようお願いいたします。今後特任教授として、応用化学系の教育や研究さらには諸業務で世話になります。御健康に留意されつつ、益々ご活躍されることを祈念します。

学会活動としては、日本化学会／有機合成化学協会／近畿化学協会等で御活躍されました。その際に京大時代に培われた人脈を駆使されて、本学理工学部における有機化学の認識度を高めたことが、今日の理工学部の発展の一助になったことは言うまでもありません。

先生の有機化学に対する造詣は大変深く、私が京大時代に隣の研究室に在籍していたころからお世



生命情報学科の創設について

生命情報学科 学科長 長野 正道



今年度、立命館大学BKキャンパスに情報理工学部が設置されました。情報システム学科、情報コミュニケーション学科、メディア情報学科、知能情報学科、それと生命情報学科の五学科からなります。そのなかで生命情報学科は情報系とバイオ系の両方の性格をもつ、わが国でも数少ない学科ですので、本学科について卒業生の皆様方にご紹介いたします。

今日のライフサイエンスにおきましては、ゲノムの塩基配列やタンパク質の立体構造など、生物由来のさまざまな情報を従来の生物学の知識と結びつけ、細胞や個体の現象を再構築することで生命を理解することが重要になってい

ます。そのためには、これまでの生体分子の理化学的性質の解析に加えて、それらの相互作用やネットワークの時系列的な理解が必要不可欠です。しかしながら、これらの情報はどれも膨大で複雑なことから、従来の生物科学的手法では解析することが難しいとされています。そこで大学が、情報科学をこの分野に応用した新しい生命科学の教育・研究の場を提供することが急務となってきました。現在、わが国ではこの方面の人材は希有なうえ、育成機関も限られています。この状況を打破し、立命館大学が二十一世紀の生物科学において創造的に貢献するために、生命情報学科を設置することとなりました。

設置する学部については、いろいろ議論が交わされましたが、ニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズムなどに見られるように、さまざまな生命現象が計算機理論に適用されてきていることか

ら、生命情報学科は情報理工学部（クリエーションコア棟）に置くこととなりました。現在、ITとバイオの異分野交流が身近に行える教育研究環境を積極的に整えつつあります。カリキュラムは情報系、数物系、バイオ系からなり、他の情報系学科をはじめ、応用化学系の科目とも相互乗り入れをして立体的に展開するように工夫し、情報科学と生命科学の両分野に精通したバイリンガルの養成を目指しています。元化学学生物工学科の菊池先生、藤田先生を除いては新任教員で構成されているフレキシブルな学科ですので、今後とも、皆様方からのご指導ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。



会員だより

東北の温泉めぐり

水田 宣雄

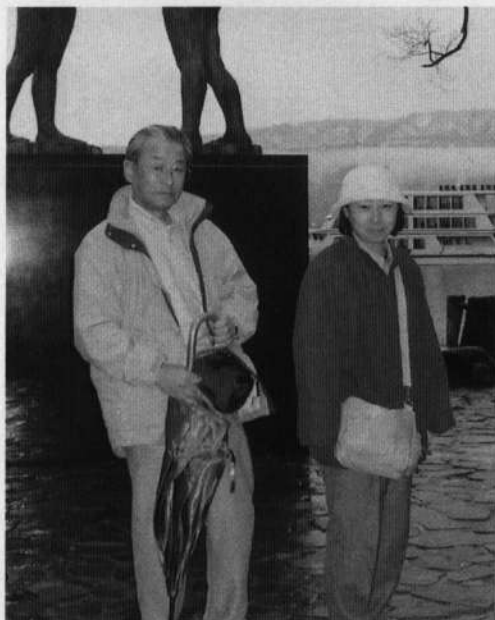
(昭和四十一年卒)

定年退職を機会に東北方面の旅行を計画した。時期は四月下旬、湯治場めぐりと北国の遅い春を求めての夫婦二人二週間の旅である。

交通手段は、移動の利便性からカーフェリーとマイカーを利用することとした。

出発地は、兵庫県の明石市である。早朝マイカーで出発、午前九時過ぎに敦賀港に到着。日本海を秋田港に向けて、二十時間ほどの船旅である。翌日早朝、定刻に秋田港到着。日本海沿いに一路、青森県の黄金崎に

湧出する不老不死温泉を目指す。三時間ほどで温泉に到着し、朝食もそこそこの人目をはばからず海岸の波打ち際に設けられた露天風呂に浸かる。多少湯温は低い、その名の示す通り黄金



色の湯である。この湯船から眺める夕日がことのほか美しいと聞いたが、旅程の都合で又の機会とする。次に向かったのは、青森県の山中にある青荷温泉である。山中深く分け入り車道脇のそこかしこに残雪が見えるころ、谷あいの川沿いに、ひっそりとたたずむ素朴で風情あふれる一軒の温泉宿にたどり着く。電気はなく、夕暮れとともに次々と宿の各所に灯油ランプがともり、幻想的な世界が出現す

企画運営委員会報告

篠原長政

(昭和四十二年卒)

企画運営委員会は、平成十年か

かせ下さい。

ら東 正弘前委員長(昭和四十一年卒)のご提案により、応化会会

員の親睦を目的として、「ゴルフ懇親会」と「徒行会(ハイキング)」

の活動を進めています。

〇七七(五六一)二六五八

〇七七(五六一)二六五九

次回からは、去る七月二十五日

の常任幹事会において、「ゴルフ懇親会」担当として、伴野 清委

員(昭和四十二年卒)ならびに「徒行会」担当として、川口士郎委員

(昭和四十年卒)にお願いするこ

とになりました。

ゴルフあるいはハイキング(ま

たはその両方)に参加ご希望の方

は、是非応化会事務局までご連絡

下さい。開催のご案内を致します。

一方、写真に興味をお持ちの方

も是非応化会事務局までご連絡下

さい。立命館大学写真研究会OB

会(応化会ニュース第二十号参

照)から開催のご案内を致します。

尚、今後の活動については、企

画運営委員会において検討の予定

ですが、ご意見があれば是非お聞

きました。午前九時、JR高槻駅改

札口に全員集合。神峰山寺、本山寺からポンボン山へ登り昼食、善峰寺(西国二十番札所)を経てJR向日町駅に到着。下山途中教えてもらった駅前の居酒屋(安くて美味しい店)で盛り上がりました。

第十二回ゴルフコンペ

平成十六年三月二十七日(土)

宇治カントリークラブにおいて、大杉義則氏(三十九年卒)に幹事をお願いして、ゴルフ懇親会を開催しました。競技方法はダブルペ

リアにて行い、十五名の参加をい

ただいたなかで、樋田克典氏(五十四年卒)が優勝されました。

第十四年卒)が優勝されました。

第九回「湖南アルプス徒行会」

平成十六年五月八日(土)

天狗岩をはじめ、奇岩や巨岩、風化した花崗岩(？)、滝など変化に富んだルートでした。

川口士郎氏(昭和四十年卒)を

リーダーに、総勢十四名は午前九時二十分にJR草津駅改札口に集

合。落が滝、縦走路合流点から天

狗岩(五百m)へ、耳岩を経てJR草津駅に戻ってきました。大変

素晴らしかったと全員満足でした。

草津駅前の大衆中華料理店にお

いて、またも盛り上がりました。次

回は紅葉の十一月です。

る。ランプの下での夕食、そして

源泉掛け流しの良質の温泉での入

浴である。もちろんテレビはなく、

聞こえるのは小川のせせらぎだけ

である。久方ぶりにゆっくりとし

た静寂な一夜を過ごすこととなっ

た。

翌日は、弘前市から青森市経由

で八甲田山麓の酸ヶ湯温泉に向か

う。途中立ち寄った弘前城の桜は、

透明感があり、花の色が際立って

見事であった。酸ヶ湯温泉は、古

くからの湯治場である。千人風呂

と称する総ヒバ造の男女混浴大浴

場で、白濁した酸性の湯に浸かる

と体の芯まで温まり心身が癒され

る。正に湯治場の湯である。

この後、十和田湖から八戸経由

で三陸海岸を南下し、湯治場を巡

る。ランながら盛岡・角館・花巻を経て

仙台から太平洋フェリーに乗船し

帰途につくのであるが、折からの

悪天候で、陸路では時節はずれの

猛吹雪に遭い、海路は大シケの船

旅となった。後半は散々の旅行と

なったが、これもまた旅の思い出

として深く心に残っている。この

間のことは、紙面の関係で詳しく

紹介申し上げることはできないが、

また皆さん方とお会いしたときに

でもお話させていただく機会があ

るかも知れない。

昨今、入浴剤や塩素の投入で温

泉に対するイメージがいささか低

下したきらいもあるが、まだまだ

全国にはたくさん魅力ある温泉

がある。これからも、心と体を癒

様が気軽に歓談できる場所として、応接室もありますので、お気軽にお立ち寄りください。

事務局だより

応化会事務局は、BKCIーストウイング六階の応用化学系

事務室内にあります。スタッフ

は、今年一月に武藤寿美子さん

から、小西昌子さんに交代しま

した。小西さんは、月・水・金

の週三回勤務されています。応

用化学系事務室内には会員の皆



応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科と化学生物工学科の二学科から成り、合わせて三十五名の教員が在籍しています。本年三月をもちまして応用化学科の近藤紘一教授と化学生物工学科の谷利陸平教授が定年により退職されました。また、本年四月に新設された情報理工学部生命情報学科に応用化学科の長野正道教授、化学生物工学科の菊池正和教授、鈴木健二教授、藤田典久教授および高橋卓也助教授の五名の先生方が移籍されました。

一方、今年度は新しいスタッフとして、応用化学科に西尾悟教授、化学生物工学科に前田大光講師をお迎えしました。また、昨年度まで博士研究員として在籍しておられた平石裕之先生と平林博樹先生は、本年度から助手としてご活躍いただいています。昇任人事に関しましては、応用化学科の加藤稔先生と化学生物工学科の若山守先生が助教授から教授に昇任されました。

新任の先生から一言

西尾 悟



本年四月より理工学部応用化学科にお世話になっております。専門分野はレーザー光化学、表面化学、ナノ化学です。私は京都大学で導電性高分子に関する研究により博士号を取得した後、三重大学にてレーザーを用いた有機薄膜創製に関する研究を、その後、東北大学にて走査型トンネル顕微鏡を用いた局所反応制御に関する研究を行ってきました。縁あって本年度より本学科で極微機能化学研究室を開設させていただく運びとなりました。今後はこれまでの研究を発展させ、新規機能性有機ナノ材料を創製する手法を開発するとともに、その機能や構造をサブナノレベルで直接評価できる装置を開発していきたいと考えています。学生の皆さんには、分野にとられない斬新な発想で研究を進める勇氣をもって、全く新しい領域を開拓してもらいたいと思っています。趣味はフルート演奏です。

略歴

今後ともどうぞよろしく願います。

一九八八年三月

京都大学工学部石油化学科卒業

一九九三年三月

京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了

一九九三年四月

三重大学工学部分子素材工学科

助手

二〇〇二年四月

東北大学大学院理学研究科化学

専攻助教授

二〇〇四年四月

本学着任

新任の先生から一言

前田 大光



本年四月、化学生物工学科に専任講師として着任いたしました。この三月に学位を取得したばかりで、新たな環境に戸惑うことも多く、日々勉強と思って過ごしております。これまでは、有機合成を用いて生体色素分子ポルフィリンの異性体や骨格変異体を新たに創製し、その構造決定や物性評価を通じて、既存の分子にはない機能性の発現を行ってきました。実際に、一つの目標分子を得るまでに一年以上かかることもあり、それでも諦めずに試行錯誤の結果、「これだ」と思うスペクトルを得たときの感動が現在の研究姿勢の基盤にあるような気がしています。

略歴

今後お世話になることが多々あると思いますが、よろしく願います。

一九九九年三月

京都大学理学部卒業

二〇〇一年三月

京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了

二〇〇四年三月

京都大学大学院理学研究科化学

専攻博士後期課程修了

博士（理学、京都大学）取得

二〇〇四年四月

本学に着任

今後、本学においては、光化学や錯体化学、超分子化学と密接に関連づけながら、より生体の機能を意識した分子設計や合成、集積化を行い、さらにはナノスケールマテリアルへの展開を考えています。自分の経験もふまえ、新しい物質を作り出す意義や喜びを研究室の学生が感じられるような指導を心がけていきたいと思っています。

応化会2003年度（平成15年度）事業報告

I. 諸事業

- 1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布 2003年4月
- 2) 2003年3月卒業生名簿作成 2003年9月
- 3) 応化会ニュース発行 2003年10月
- 4) 全会員への通信、会費請求 2003年10月
- 5) 在校生ソフトボール大会 2003年10月5日
- 6) 懇親ゴルフの会開催 2003年10月18日
- 7) 東海地区懇話会・懇親会 2003年10月25日
- 8) 徒行会の開催 2003年11月15日
- 9) 卒業記念パーティー 2004年3月21日
- 10) 懇親ゴルフの会開催 2004年3月27日

II. 諸会議

- 1) 幹事会
 - 第1回幹事会 2003年6月7日
 - 第2回幹事会 2003年11月16日
 - 第3回幹事会・新年会 2004年2月22日
- 2) 各種運営委員会
 - ・応化会ニュース編集委員会 第1回 2003年6月28日
第2回 2003年9月20日
 - ・地域別活動促進委員会 東海地区第1回委員会 2003年5月31日
東海地区第2回委員会 2003年7月26日
関東支部幹事会・新年会 2004年2月6日
 - ・20周年記念誌編集委員会
第1回編集委員会 2003年6月7日、第2回編集委員会 2003年6月29日
第3回編集委員会 2003年7月27日、第4回編集委員会 2003年9月21日
第5回編集委員会 2003年11月16日、第6回編集委員会 2004年1月16日
第7回編集委員会 2004年2月8日、第8回編集委員会 2004年2月22日
第9回編集委員会 2004年3月7日、第10回編集委員会 2004年3月20日
 - ・20周年記念事業実行委員会
第1回委員会 2003年12月18日
第2回委員会 2004年1月15日

2003年度（平成15年度）応化会決算

(単位:円)

一般会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	1,984,466	1,984,466
会費(一般)	2,500,000	2,080,000
会費(学生)	2,000,000	2,210,000
寄付金	300,000	202,000
雑収入	5,000	50,276
合 計	6,789,466	6,526,742

支出の部	予算額	執行額
総会開催費	0	0
事業等補助金	200,000	18,000
地域別活動推進費	700,000	687,391
会議費	200,000	189,229
印刷費	700,000	540,750
郵送費	1,000,000	742,810
人件費	500,000	458,100
事務局費	50,000	47,947
雑費	100,000	30,000
拠出金(特別会計へ)	2,000,000	2,210,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	110,000
在学生活動援助費	200,000	80,000
振込手数料	100,000	57,170
予備費	939,466	442,927
合 計	6,789,466	5,614,324
次年度繰越金		912,418

特別会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	5,951,658	5,951,658
拠出金	2,000,000	2,210,000
名簿売上	100,000	6,000
名簿荷造送料	100,000	1,000
雑収入	1,000	0
合 計	8,152,658	8,168,658
支出の部	予算額	執行額
名簿出版費	1,018,500	1,018,500
名簿荷造送料	500,000	333,359
人件費	500,000	433,200
事務局費	200,000	18,865
予備費	5,934,158	0
合 計	8,152,658	1,803,924
次年度繰越金		6,364,734

応化会2004年度（平成16年度）事業計画

I. 諸事業

- 1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布 2004年4月
- 2) 立命館大学化学科出身の役職者交流会 2004年5月9日
- 3) 応化会総会 2004年6月19日
応化会創立20周年記念式典
- 4) 応化会創立20周年記念誌発行 2004年6月
- 5) 2003年3月卒業生名簿作成 2004年9月
- 6) 応化会ニュース発行 2004年10月
- 7) 全会員への通信、会費請求 2004年10月
- 8) 在校生ソフトボール大会 2004年10月
- 9) 卒業記念パーティー 2005年3月20日
- 10) 懇親ゴルフの会開催
- 11) 徒行会の開催 2004年5月8日、秋季

II. 諸会議

- 1) 第1回幹事会 2004年4月25日
第2回幹事会
第3回幹事会
- 2) ニュース編集委員会

III. 支部活動（関東支部、東海支部）

2004年度（平成16年度）応化会予算

(単位:円)

一般会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	912,418
会費(一般)	2,300,000
会費(学生)	2,200,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
合 計	5,667,418
支出の部	予算額
総会開催費	800,000
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	300,000
会議費	200,000
印刷費	800,000
郵送費	1,500,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	0
拠出金(連絡協議会へ)	110,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	807,418
合 計	5,667,418

特別会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	6,364,734
拠出金	0
名簿売上	10,000
名簿荷造送料	10,000
雑収入	1,000
合 計	6,385,734
支出の部	予算額
名簿出版費	0
名簿荷造送料	50,000
創立20周年記念誌発行費	1,000,000
創立20周年記念誌送料	300,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	4,335,734
合 計	6,385,734